

アドミッション支援オフィスによる中国語圏 の入学志願者に対する出願支援

京都大学研究国際部留学生課
Kyoto University

キーワード： ワンストップサービス、大学院受験、国際戦略

【アドミッション支援オフィスの設置】

アドミッション支援オフィスは、中国語圏を中心に京都大学大学院への留学を志願する人たちと大学院の各研究科との間に入り、ワンストップサービスを行っている部門である。

業務の流れを検証する必要などから、しばらくの間は仮発足の状態で業務を開始し、平成 22 年度に本格的に発足した。発足後 2 年を経て学内での有用性が認められ、現在策定中の本学の国際戦略にも盛り込まれる予定である。ここでは設置の目的やその役割を紹介したい。アドミッション支援オフィスは英語名を Admissions Assistance Office といい、頭文字をとって AAO と呼んでいる。

【AAO の設置目的と機能】

京都大学には、世界的に卓越した国際競争力ある研究を推進し、教育においては、リーダーとして世界を牽引する国際力豊かな人材を育成し輩出していく責任がある。そして京都大学では、現在、100 カ国以上の国から学位取得を希望する 1,800 人近い留学生が学んでいる。これらの留学生たちは本学の研究教育の国際化にとってなくてはならない存在である。

一方においては国際的な留学生獲得競争はますます激化しており、日本の大学が安穩としていることはもはや出来ない状況にある。日本への留学に対して、入学の手続きを少しでも分かりやすいものとし、併せて、留学生の質の向上を図ることが AAO の設置目的である。

AAO は、以下のようなワンストップサービスを提供している。

- ① 留学希望者から寄せられる各種の問い合わせへの回答
- ② AAO への申請書類の受付
- ③ AAO への申請書類のチェック、不足書類の連絡、学歴検証
- ④ 指導を希望する教員への取り次ぎ、(必要に応じ) 本人とのスカイプを使用した Web 面接

【大学院受験に関するワンストップサービスの必要性】

多くの場合、日本の大学院、または大学院入学を目指した研究生に出願する場合には、あらかじめ指導教員の内諾を得ることを必要としている。こうした方法は日本独特のものであり、大半の留学志願者は、自身が受験したいと考えた大学の研究科に出願書類を提出すれば、誰でも入学試験を受けられるものと考えている。そのため、海外で開催される留学説明会等の場で、留学志願者に指導教員の内諾が必要であることや、大学院の正規課程を受験する前に、まず研究生として入学し半年から 1 年程度、その身分で過ごさなければならないことを伝えると、必要性をなかなか理解できない。一面識もない日本の大学の教授や准教授に、何らかの方法でアポイントを取り内諾を得なければ、日本の大学院を受験することすらできないという事実を知り、その作業の困難さに、日本留学を非常にハードルの高いものとして捉えてしまうことがある。

また、内諾の照会を受ける教員側も、この手の申し込みの件数が多すぎて、電子メールへの返信が困難な状態になっていたり、既に多くの学生を引き受けていて、これ以上新たな学生の指導を引き受ける余地がないなどさまざまな事情を抱えており、アポイントが取りにくい状況であることも多い。

AAOの特色は、留学希望者と研究科、あるいはその教員との間に入ったアレンジを行うことにある。そのためにワンストップサービスを提供している。

【AAOの対象国・地域】

AAOの対象国・地域は現在、中国本土、台湾、香港となっているが、現状では、利用者の大半は中国本土出身者がほとんどである。留学生全員に対して、こうしたワンストップサービスを提供できるのが理想的であるが、各国ごとの様々な教育制度を正確に把握した上でなければ、責任を持って受験案内を行うことはできない。人手や経費など限られた条件の中で実施するためには、留学生の中で一番多くの割合を占める中国語圏から始めるのが、もっとも効果的なためである。

また、中国からの志願者については、残念ながら出願から受験の過程で、提出書類の偽造や代理受験などの可能性が高いことが多くの大学で指摘されており、公正な受験を行い、優秀な学生を獲得するため、出願の案内を行う過程で、提出書類の正贋や学歴の検証を行う手続きを組み入れる必要があることも、その一因となっている。

【留学に伴うブローカーの利用の問題点】

日本の大学の入学手続きには留学希望者に不親切なものがまだまだ多い。たとえば、検定料の支払いもかつてはかなり困難だった。海外からの送金時に円価額が確定せず、過不足が生じるなどの問題が教員や担当の職員を悩ませていた。本学ではこのため検定料の支払いもクレジットカードで実施できるように改善しており、カード決済の利用者は増えている。

留学希望者がやむを得ず、高額な留学ブローカーに頼ることにもなるのは問題である。学部から日本に留学しているなど、既に日本に在住している人であれば、自身で出願手続きを行うことができるが、仮に中国国内に在住している場合は、日本国内に住む親族、知人などがいない場合は、留学斡旋業者や金銭で代理人を引き受けるブローカーなどに頼まなければ、出願手続きを行うことができないという事情がある。試験のために来日する場合でも、日本国内に住む身元引受人が必要となるため、金銭を支払って留学斡旋業者やブローカーの世話にならなければならない。

こうして、中国から日本に留学する数万人の需要が生じるため、時に悪質な留学斡旋業者やブローカーが介在していることも多い。例を挙げれば、個々の教員に対して執拗に研究生としての受け入れを要請してきたり、出願資格を満たしていない留学希望者に対しては、偽造した中国の有名大学の卒業証明書や成績証明書を準備していることもあるようである。本学でもAAOのWeb面接を行ってはじめて研究計画書がブローカーによって作成されたものであることが判明し、入学を許可しなかったケースが起こっている。

中国国内では、特に使用目的などを問わずに、書類の印刷や印章の作成を引き受ける業者もあるとのことで、また日本国内でも、書類や印章を偽造している外国人グループが摘発されたなどのニュースに接することがある。

【AAOの事務フローや使用言語】

AAOの具体的な事務フローは図のようになっている。留学希望者はAAOのホームページへアクセスして必要な情報を入手し、書類がそろった段階で研究科に連絡し、受入の可否を検討してもらう。対応する対象は中国語圏を対象としているが、質問やそれに対する回答は英語及び日本語

で行うことを条件としており、従事者は特別に中国語の能力を必要としない体制としている。

また、問い合わせや各種必要書類の授受は、すべて電子メールで行っており、紙の書類は使用していない。

【AAOの将来】

現在のAAOは地域限定でのサービス提供となっているが、こうした取り組みに対し、学内での有用性の認識は非常に高まっている。このため、現在策定を行っている次期の京都大学の国際戦略でもAAOの充実が盛り込まれる予定である。また、他大学からも問い合わせをいただいている。

参考 AAOのウェブサイト

〈 <http://www.kyoto-u.ac.jp/ja/education/international/students1/ku-aa0.htm> 〉

